２０２３年度（令和５年度）学校評価自己評価表

駅家南中学校区	校番４６	福山市立宜山小学校
	最終更新日	2024 年（令和６年）２月 16 日

Ⅰ　福山市

ミッション　福山に愛着と誇りを持ち，変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン　「福山１００ＮＥＮ教育」の基本理念のもと，各中学校区・学校が「２１世紀型“スキル＆倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し，日々の授業を中心として評価・改善を進めながら，子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容

〇短期経営目標の達成は，単年度でできるものではなく，次年度の担任にも引き継いでもらいたい。
〇もっと積極的に生徒の様子を地域に発信してもらいたいと共に，保護者の協力をどう得るのか検討が必要である。
〇個人を大切にすることも大事だが，学校全体で大きな目標に向かっていくのもよいと思う。

児童生徒の現状

〇中学校卒業後の自己実現に向けて意欲的に学習に取り組む生徒も多いが，キャリア形成に前向きになれない生徒に対し支援が必要である。
〇自ら進んで学びを広げる力は高まってきたが，自分の考えをしっかりと発表することができにくい。
〇課題を見つけたり，解決したりする活動に進んで取り組んでいるが，伝えたり発信したりする力を十分に育成できていない。

育成する力（21 世紀型“スキル&倫理観”）	コミュニケーション力　　協調性・思いやり
めざす子ども像（義務教育修了時の姿）	駅家に愛着と誇りを持ち　主体的に行動する児童生徒
中学校区として統一した取組等	〇「認知のしくみ」から設定したテーマを踏まえた授業を行う 〇保護者，地域と連携したふるさと学習を積み上げる 〇自ら課題を見つけ，他者と協力して地域貢献できる子どもを育成する。

Ⅲ　自　校

ミッション

ふるさとに自信と誇りをもち，社会に貢献できる，自立した子どもの育成

学校教育目標

自ら考え学び　社会に貢献できる子どもの育成

現　状

＜児童＞
〇書くことで，自分の考えを表現できる児童が増えてきた。
〇感染症対策等で運動量が減ったためか，体力テストの結果が下がった。
〇少し難しいことに挑戦してみようという意欲が育ってきた。
〇異学年間のつながりが強く，あこがれの上級生から学ぶことができている。
〇地域に支えられているという意識が高く，郷土愛が醸成されている。
＜授業＞
〇「分からない」が安心して言え，学び合おうと意識が変わってきた。
〇児童が活躍する場面を増やす授業改善に取り組んでいる。
〇目の前の児童の学びに応じて臨機応変に変える授業までには至っていない。
　子ども主体の学びについて，引き続き工夫改善していく必要がある。

育成する力（21 世紀型“スキル&倫理観”）		コミュニケーション力（話す力）　　思いやり（人間力）
めざす子ども像		

	コミュニケーション力（話す力）	思いやり（人間力）	
全体	自分の考えを持ち，他者に対してその考えを積極的に伝える子ども	他者の考えと自分の異なる考えを受け入れ，仲間と共に課題を解決する子ども	
1・2 年生	相手に応じ，身近なことなどについて，事柄の順序を考えながら話す力	身近にいる人に温かい心で接し，明るく接する態度	友だちのよさから学ぶ態度
3・4 年生	相手や目的に応じ，調べたことなどについて，筋道を立てて話す力	相手のことを思いやり，進んで親切にする態度	
5・6 年生	目的や意図に応じ，考えたことや伝えたいことなどについて，的確に話す力	誰に対しても思いやりの心を持ち，相手の立場に立って親切にする態度	

研究	テーマ	「認知のしくみ」をふまえ，子どもの学びの過程を大切にし，子どもと創る授業
	内容等	重点化！学びの自己調整力～子どもたちの学びの中に CIER モデルを生む～
めざす授業の姿		〇　子どもが，課題について考えたい，伝え合いたい，友達の考えから学びたいという意欲をもっている。 〇　子どもが，自分の学びを振り返り，成果や課題，疑問を見出し（省察）ながら，学びを積み上げている。

Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立宜山小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日） □指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	最終評価（2月末） □指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
2	宜山っ子憲章を実現する子どもの育成	★	継続	○「つまずきも友と咲かせる学びの花」を実現する。	○学びの中にＣＩＥＲモデルを生む。 ○ＮＩＥ活動を推進する。	○児童のふり返り肯定的評価80%以上 ○教職員アンケート	□学びの中で自己調整を行うことに対する児童の肯定的評価は８９%であった。 □ＮＩＥ活動を通して児童に力が付いたと感じる教職員は73%であった。	３	３	○日々の授業実践を，「学びの花通信」を活用して教職員や児童に広めていく。 ○1・2年生で低学年向けのＮＩＥを開始し，6年間の積み上げができるようにする。	□学びの中で自己調整を行うことに対する児童の肯定的評価は８０%であった。 □ＮＩＥ活動を通して児童に力が付いたと感じる教職員は87%であった。	３	３	３	○授業や家庭学習の中で,自分で計画を立てるとは具体的にどういうことなのか，児童と共通理解を図る。 ○引き続き，発達段階に応じたＮＩＥ活動を推進し，お互いの活動が見えるようにする。
			継続	○「育てよう　相手の思いに気づける心」を実現する。	○自分で学ぶ力をつけよう，自分で決める３Ｍの取組を進める。 ○「にっこり！たまて箱」による学び合いを行う。	○教職員アンケート ○児童のふり返り達成率80%以上 ○6年生の紹介の割合80%以上	□学びの自己調整を意識して授業ができた教職員は８７%であった。 □３Ｍが達成できた児童は８９%であった。 □6年生の紹介割合は４０％であった。	３	３	○単元のまとめや，行事のふり返りを，３Ｍを使って振り返るようにする。 （もっと・もう一度・もう少しから，１つ選択する） ○引き続きあこがれのリーダーとして６年生を紹介していくとともに，6年生以外の学年も互いの良さに目を向けられるように取り組みを継続する。	□学びの自己調整を意識して授業ができた教職員は93%であった。 □３Ｍが達成できた児童は84%であった。 □6年生の紹介割合は100%であった。	３	４	４	○定期的に３Ｍを活用するとともに，行事等の振り返りも３Ｍを意識させてふり返らせるようにする。 ○引き続きあこがれのリーダーとして６年生を紹介していく。また，1～5年生の良いところも互いに紹介できるようにする。
			継続	○「広げよう　一日一つ　笑顔の輪」を実現する。	○外遊びなどを行うことにより，体を動かすことの好きな児童を育成する。 ○SDGｓ「11住み続けられるまちづくりを」を実現するために，地域社会に児童が関わる活動を推進する。	○児童アンケート肯定的評価80%以上 ○リサイクルに参加した児童の割合70%以上	□体を動かすことが好きな児童は86%であったが，実際に外遊びを行った児童は67%であった。 □児童会や４年生がリサイクル活動を行い，全校に呼び掛けた。参加児童は55%だった。	３	３	○学級レクを推進する。 ○新体力テストの結果を踏まえ，週一回遊びに取り組む場を設定する。 ○より多くの児童が活動の意義を捉えて参加できるようにするために，今後も活動を継続していく。	□体を動かすことが好きな児童は 87%であった。実際に外遊びを行った児童は 73%であった。 □4年生や児童会によるリサイクル活動の継続を行った。長期間にわたる取り組みの中で，参加した児童は 71%だった。	３	３	３	○引き続き学級レクを推進する。また，遊びに取り組む場の内容を工夫して，体を動かすことの好きな児童を育んでいく。 ○リサイクル活動に対する関心を高め，参加する児童が増えていくための取り組みを工夫していく。
1	保護者・地域に信頼される学校		新規	○保護者から寄せられた相談事を記録化し，確実に解決を図る。	○相談事の記録及び解決したかどうかの確認を毎週末に行う。	○解決した問題の割合	□保護者からの相談を全教職員で共有し，「保護者対応記録簿」に整理し，確実に取り組んでいる。今年度９件の相談があり，すべて迅速に対応し，解決している。	３	３	○今後も継続して報連相を徹底し，全教職員で共有していく。	○今年度下半期７件の相談があった。報連相の徹底を行い，迅速で誠意ある対応をしてきた。全教職員で共有し，省職員の意識改革もすすんでいる。	３	４	４	○全教職員が事象を共通理解し，自ら関わっていこうとする意識をもたせる。

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	１００％以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	８０％以上１００％未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	６０％以上８０％未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	４０％以上６０％未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	４０％未満の達成度	目標を達成できなかった。